

国見版CI策定検討委員会 アンケート結果

①国見町の推し(国見町のうれしいこと、たのしいこと、好きなこと)ーI

- ・防塁、果物、野菜、盆地ののどかな風土
- ・始めること全てが新鮮で、可能性がある町だという事
- ・産業振興課の佐藤智宏主幹
→とても親身に対応して頂いている。農業を始めるにあたり必要な準備のほとんどをサポートしてくださっている。(関係各所に呼んでいただいたり、畑や家探しなども)
- ・くにみ農業ビジネス訓練所
→①県の認定を受けているため、国の就農準備資金を利用できる
②「理想」と「現実」の両面が見られる(理想=訓練所の整った環境、最新技術のハウス/
現実=提携農家のもとで最盛期の忙しさなど体感)
③就農までの手厚いサポート(上記の産業振興課の佐藤主幹を筆頭に)
④就農後のサポート(農業機械のレンタル/農友会の活動など)
- ・道の駅国見あつかしの郷
→「直売所」であり「観光地」である/県内外から人があつまる/近年の道の駅ブーム
- ・八巻忠一さん
→国見町に協力する方(民生委員/道の駅の役員/くにみ農業ビジネス訓練所と提携して訓練生の受け入れ等)
- ・引地町長
→たくさん改革(道の駅/訓練所)
いつも気軽に話せる。マルシェの際もよく話して下さる。

①国見町の推し(国見町のうれしいこと、たのしいこと、好きなこと)ー2

- ・観月台：図書館が好きで建物の見た目も好み。庭園にカフェスペースを作ってまったりできたら更に良くなりそう。(飯坂の旧堀切邸イメージ)
- ・図書館：夜の9時まで開けてくれる、新刊豊富、市内では人気で順番まちの本もすぐ借りられる。ただ、5時以降や休日(?)常駐の司書さんが不在になり、借出しのためにボタンで作業中の方を呼ばねばならない。その方たちには、リファレンスができないので利用者が必要な検索ができない。サービスとして不十分だと思います。なぜこのような運営なのか不思議です。
- ・お茶場：観月台カレッジのウォーキングで知った小坂地区観音堂の風習。おへんろさんが立ち寄ると、近くの方がお茶とお菓子をふるまう。今でもつづけていらっしゃる。立派な公民館がふだん閉鎖されているのを各地でみかける。ウォーキングとお茶場をくみあわせて町歩きのイベントを作れないか。ただ、ウォークラリーで歩くだけだと国見には、お店がないからトイレも借りられないし。
- ・年間を通して果物がとれる。道の駅の品揃えも良く新鮮。サービスエリアやインターチェンジ等の施設がある。
- ・交通の便が良い(IC・4号線・東北本線)
- ・果物おいしい(県外の人に喜ばれます。)
- ・生活に必要な施設はひとつとおり固まっており、意外と便利。

①国見町の推し(国見町のうれしいこと、たのしいこと、好きなこと)ー3

- ・ 野菜や果物をもらえる。
- ・ 四季の美しさ（春は満開の桜や桃、夏はバテるほどの暑さ、秋の紅葉、冬の厳しい寒さ雪景色など）がしっかりと感じられること。
この四季があっただけで出来るおいしい果物・野菜など。
- ・ 鹿島神社の例大祭、秋の農業祭、高速道路入口が近い。
行きたい場所へは、1時間以内で行ける。（海・山・モールなど）
- ・ 現時点で、他の地域と比較して特筆すべき観光資源やモノ・コトなどはないと思います。しかし、短編映像作品によるプロモーション活動、大坂団地のリノベーション事業、エリアデザインラボ、国見学園の設立に向けた事業など、若手人材の育成の場が充実している地域は、福島県全域を見渡してもそんなに多くありません。
このような若手人材の育成の場を保ちつつ、ここから商品開発やイベント開発、今あるコンテンツの見直しなど、アップデートを図るフェーズにあると考えます。
- ・ なんでも受け入れてくれるようなオープンな雰囲気
- ・ 観月台文化センター、観月台公園

②国見町のイメージについて【色】

- ・果物色、野菜色
- ・アブリコット・オレンジ
- ・オレンジ(あんぽ柿)、ピンク(桃)、茶(田んぼ)
- ・桃色（桃の花の色）、空色（SAや高台から見わたした時の広い空）
- ・桃の色
- ・桃色（もも・はす）、白（ゆき）、緑（葉っぱ）、茶（土）
- ・ピンク色
- ・白
- ・無色 or 白
- ・クリーム色、薄ピンク色

②国見町のイメージについて【言葉・フレーズ】

- ・ 「国」の素敵が「見」える町
- ・ あらゆるフロンティアを開拓する町
- ・ 町のアピールのため、いろんな取り組みを積極的に行っている
- ・ 「国見」漢字だと堅いイメージ
- ・ 時代とともに、町民とともに、社会に合わせて、かわり続ける
- ・ これからの町、まだ何も無い町、半田おろしの町（死ぬほど風が強い）
- ・ 人にやさしい街
- ・ 農家・百姓・くだもの・コンパクト・ミニマル（必要最低限の）・余白
- ・ 桃・あつかし・米・義経
- ・ 千年の町
- ・ 挑戦できる余白のある町、ずっと学び続けられる町、豊かな日常を生きる町

③これからの国見町にあったら良いと思うものー！

- ・あらゆる面でスタートアップを支援する機関
- ・こどもが遊べる施設(屋内？屋外？大きな公園？)
- ・気軽にお茶ができるカフェ
- ・スーパーマーケット
- ・ランニング・ジョギングの拠点になる温泉（銭湯）施設。ペットの散歩のついでに立ち寄れるカフェ（カフェがないですよね）ふれあい動物園（うさぎ・ハムスター・ヤギ・保護犬猫とふれあえる動物園）福島に越してきて県内に子ども動物園がないと思いました。子育ての町をアピールするなら良いのではと思いました。
- ・若者が働ける職場と住宅の整備
- ・にぎわいが欲しい
- ・短期移住者や子育て世代のための集合住宅（外観等も含め魅力あるもの）
- ・短期（1ヶ月程度）で国見の生活を体験できる空家。
- ・道の駅周辺にもう1か所立ち寄ることのできる場所。

③これからの国見町にあったら良いと思うもの-2

- ・道の駅周辺に遊べる施設（農業や料理などの体験、温泉、レストラン、ショッピングなどが出来る複合施設）
- ・ゴルフ場・スケートボードパーク
- ・居酒屋・温泉・星野リゾート
- ・コンセプトの明確な産直市場
- ・最先端の教育が受けられる教育施設
- ・ハイグレードなスーパーマーケット
- ・農業研究所 ・質の高い住宅
- ・アーティストインレジデンス（芸術家等が特定の場所に滞在し、そこで創作活動に専念できる環境を提供すること）ができるような宿泊施設やアトリエ ・ちいさな映画館
- ・ダンス、楽器、演劇の練習等に気軽に使える貸しスタジオ ・パートナーシップ制度
- ・議員の方に女性がいなかったもので、女性が入ってもらえたらうれしい ・桃食べ放題
- ・結婚、子育て支援での人口増加だけでなく、そうでない生き方をしたい人が暮らしやすい制度や賃貸住宅など

④国見町の農業への期待についてーI

- ・ 農家は、食糧安全の視点から、これからますます注目され、必要となる産業です。地味がよく、なんでも採れる国見町は、農業ビジネス訓練所創設も含め、貴重な立地位置にあります。
- ・ まだまだ国見独自の農業技術でしか営農されていないように思う。スマート農業然り、外国の技術等々を取り入れる農業者がいると良い。
- ・ 訓練所を活用して新規就農者を増やす。
- ・ 訓練所の定員を増やす。（提携農家を増やす）
- ・ 法人化
国見町では家族で複合経営（桃・米・柿）が多い印象
複合経営 ⇒ 年間の仕事及び収入がある ⇒ 法人化に最適
- ・ あんぽ柿の更なるブランド化
- ・ 国見町ブランドの野菜をつくってほしい。トップダウンで決めて栽培支援とメニュー開発を町ぐるみで行い、町内のどこに行ってもそのメニューが食べられるといったイメージを定着させる。伝統野菜があればと思いますが・・・。なければ逆に日本でまだ栽培していない野菜とか。具体的なモノは思いつかなくて申し訳ありません。

④国見町の農業への期待についてー2

- ・ 千年公園、あつかし歴史館どちらも立派なハコで、素晴らしいのですが、行っても何もないなという印象がある。わたしにとってはそこに動物がいる（池のコイやカモでもいい）ことや、何かプラスになる体験があればリピートするのになと思います。やはり町に歩いている人がいないのが活気のないひとつの要因だと思います。そぞろ歩きたくなるストリートが作れないかと思います。
- ・ くにみ農業ビジネス訓練所の充実、農家所得で食べていける農業の確立。
- ・ 商工業とも何か連携できたらおもしろいことが生まれるかも。今後もつながりを深めていきたい。また昔は、大工の職人で農家と兼業している人も多く稲刈りの時期は休んで、農家をやっていたりした。もちろん今現在同じことができるわけではないと思うが、そういった自由な働き方を選択する土壌が国見にはあるのではないかと思う。
- ・ 農家の方が減ることなく増えて、国見の特産品が守り続けてられること。全国的にもっと広まってほしい。（桃・米・あんぽ柿など）
- ・ 生産量の維持、作った作物の評価。後世まで、国見に残る産業の1つが農業だと考える。
- ・ 現状を考えると、農産品単体のブランド化が難しい状況にあると思われるため、産直市場や加工品、地域食材を使った飲食店の誘致など、国見町産の農産品でつくる商品やコンテンツをブランド化する方向で進めるのが良いと思う。

④国見町の農業への期待についてー3

- ・農産品自体のブランド化を進めるとすれば、農業研究所などの研究機関を開設する必要があるため、現時点ですぐに取り組むのが難しいと思う。
- ・東京にいと農業に関心のある人や、趣味として農業をしたいという人が多いように感じます。国見町でつくられるものは何でも美味しく、長年のノウハウがあると思うので、その技術が国見町内だけでなく、その他の地域の人にもフットワーク軽くアクセスしてもらえたら需要があるかも…と思います。